

『活かすは「地産」 きめ手は「地消」』

世界に飛躍する特産品

薩摩焼パリ伝統美展レポート

社団法人鹿児島県特産品協会

事務局長 池田 誠

開催初日から、ストライキで交通網が麻痺し大渋滞したにもかかわらず、開館を心待ちしていた日仏の美術愛好家が大勢詰め掛け、金襴豪華で繊細な香炉や花瓶、重厚で品格のある茶器などの薩摩焼に魅了されていました。また、「現代薩摩の陶芸パリ展」でも予想を上回る5,000人近い来場者が努めました。

薩摩藩が薩摩焼を初出展してから140年という節目を記念して、世界最高峰の陶磁器美術館であるフランス国立陶磁器美術館「セーブル美術館」において、17世紀から19世紀の薩摩焼やジャポニスムの影響を受けた欧州の陶磁器など146点を展示した「薩摩焼パリ伝統美展」(鹿児島県、県特産品協会等主催)が、2月18日まで開催されています。また、昨年11月から12月にかけて、パリ日本文化会館で現代作家や伝統窯の作品45点を集めた「現代薩摩の陶芸パリ展」や、「ジャポニスムと薩摩」と題する講演会、パネルディスカッションなどが開催されました。

併せて、美術館の一角に、大島紬、屋久杉、薩摩切子、郷土玩具等の伝統工芸品、お茶、焼酎、菓子などを展示・紹介する「かごしまPRコーナー」を設置し、本県特産品のPRに努めました。



開幕日に行なわれたレセプション。
活発な交流が行なわれた。



パリジェンヌも大島紬体験

『特産品 活かせ先人の知恵』

訪れて進化する現代の薩摩焼に見入っていた。

レセプションでは、大野実行委員長、伊藤知事、森鹿児島市長等の関係者約30人が大島紬の着物姿で出席。招待者や居合わせた観覧者が興味深げに見入ったり、一緒に写真撮影するなど、大いに雰囲気を盛り上げていただいた。

かるかん芋菓子、漬物、焼酎などの試飲、試食コーナーでは、原材料や製法などを尋ねる人も多く大変好評で、また、繊細な色付けをした郷土玩具や手彫りの屋久杉湯飲み等を手に取り、デザインや製造技術に感心していた。特に、パリジェンヌに試着体験をしていただいた大島紬が好評だった。

今回は、140年前に薩摩焼が欧州文化に与えた影響力の大きさを改めて認識するとともに、大島紬、焼酎、お茶など鹿児島の生活文化の奥深い魅力を欧州のみならず世界に発信できたのではないだろうか。同時に、歴史や伝統を背景に、将来を見据えた質の高いものづくりの必要性を痛感するなど、貴重な体験であった。

かごしまブランド推進本部

かごしまブランド推進本部は、本県産農産物のブランド確立を図ることを目的に、生産者団体、流通関係者、消費者代表、行政機関等の16団体で構成されています。

平成元年から始めた「かごしまブランド」確立運動では、品質の良い農産物を量をまとめて安定的に供給できる、競争力の強いモデル産地として、現在、14品目20产地を「かごしまブランド産地」として指定しています。

また、知事のトップセールスなどによるPRをはじめ、果実などへの糖度・着色等の品質基準の導入、「かごしま」を前面に出した県域ブランドの導入による認知度向上、ならびに、県内での消費拡大を目的とした量販店の「かごしまブランド販売協力店」の認定など、新たな取組を進めているところです。

県特産品協会会員の皆様方におかれましては、それぞれの立場から、「かごしまブランド」を中心とした本県農産物の一層のイメージアップと販路拡大にご支援、ご協力をくださいますようよろしくお願い申し上げます。

かごしまブランドマーク

『伝えようさつまの 「技」と「心」』

「マーケットインの発想で商品の魅力アップを」

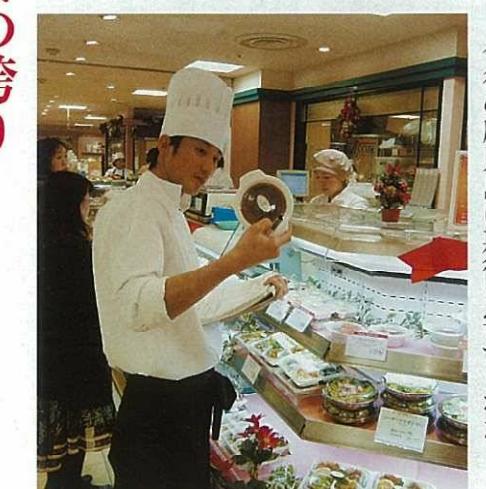
株式会社大丸 神戸店

営業企画推進部長 戸高 順一さん



「ツゲ、屋久杉、大島紬、薩摩切子など、鹿児島ならではの素材や技術をうまくアレンジした独創的なものや芸術的にもレベルの高い作品、その他、エコバック、箸袋など、今の時代の生活スタイルや時代の潮流を捉えたもの、さらには、ファンシーで心温まるものなど、審査をしていても非常に楽しくワクワクしましたし、何よりも、作り手の熱い思ひが伝わってくる作品が多いことに感銘を受けました。さらに、「作り手の思い」だけではなく、「消費者のニーズ」を如何にとらえるかという、マーケットインの発想をもつと取り入れれば、「作品」としてだけではなく、「商品」としての魅力がさらに高まっていくのではないか」との感想をくださったのは、昨年10月に開催した「2007かごしまの新特産品コンクール」で工芸品部門の審査委員を務めてくださった(株)大丸神戸店営業企画推進部の戸高順一部長。

同店では、毎年5月に「南国鹿児島の觀光と物産展」を開催しており、平成7年の阪神大震災(会期最終日に震災に遭遇)を乗り越え、今年の開催で40回目を数える名物展になっています。「鹿児島から出展される方々、窓口となる特産品協会、当店が一体となつて、お客様との信頼関係を築いてきた40年です。」



売り場独白の表示事項についての確認の様子

「最近は、以前のような人ヒット商品というようなものは少なくなっています。お客様が個々の価値観を大切にして、安易に一般のトレンドに流されなくなつたということや、消費自体がモノからコト(旅行、カルチャーレッスン、エステ、食事など)へ変化してきているというようなことが言えるのではないか」と今後の鹿児島に期待を寄せられた。

「最近は、以前のような人ヒット商品といふようなものは少なくなっています。お客様が個々の価値観を大切にして、安易に一般のトレンドに流されなくなつたということや、消費自体がモノからコト(旅行、カルチャーレッスン、エステ、食事など)へ変化してきているというようなことが言えるのではないか」と今後の鹿児島に期待を寄せられた。

消費者に信頼される土産品づくりを推進

鹿児島県観光土産品公正取引協議会は、消費者が観光土産品を購入する時に正しい商品選択ができるように、また業界の公正な競争秩序を確保することを目的に、公正取引委員会の認定を受けて設立された団体です。

全国協議会で定めた観光土産品(食品)の表示や包装等に関するルール「観光土産品の表示に関する公正競争規約」の周知に努めるとともに、講演会、研修会などの開催を通じて観光土産品に関する様々な情報提供を行っております。また、2年に一度、新作土産品コンクールを実施するなど、県内特産品の品質向上や新たな特産品の開発促進にも努めています。

今年は「篤姫」の放映などの効果で鹿児島への観光客等の増加が期待されます。当協議会としては、関係機関との連携のもと、改めて「公正競争規約」の周知徹底を図りながら、消費者に信頼される土産品づくりを推進しております。

今年は「篤姫」の放映などの効果で鹿児島への観光客等の増加が期待されます。当協議会としては、関係機関との連携のもと、改めて「公正競争規約」の周知徹底を図りながら、消費者に信頼される土産品づくりを推進しております。

会とつなぐ団体

鹿児島県観光土産品公正取引協議会
事務局(鹿児島商工会議所企画産業課長)
企画課長兼産業課長 田中 文裕

昨年3月開催の観光土産品認定審査会の様子

5

4